

課程 全日制

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	1	学年	1	科	全学科
使用教科書		科学と人間生活（数研出版）							
補助教材等									

1 学習の到達目標

自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりの理解を深める。観察・実験の技術を身に付け人間生活を科学的に探究できる力を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業の欠席をしないようにすること。
- 前向きに授業に取り組むこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりを理解している。 ・実験・観察の基本操作や記録などの技能が身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象から問題を見だし、実験・観察から得られた結果を自分の言葉で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に進んで関わり、自分の考えを振り返り、探究しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査 ○実験レポート ◎小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査 ◎実験レポート ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験レポート ◎自己評価 ◎出欠席、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準	
一学期	4						
	5						
	6						
二学期	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
三学期	12	物質の科学	教科書	35	材料とその利用 衣料と食品	一般的な金属やプラスチック、繊維の性質について理解する。(a) それぞれの用途について、その特徴と関連付けて説明できる。(b) 身近な製品を環境問題と結び付け理解しようとしている。(c)	
	1						
	2	光や熱の科学			光の性質とその利用 熱の性質とその利用	光の性質や熱運動について理解する。(a) 学習したことから身のまわりの現象を説明できる。(b) 日常生活や身近な現象に結び付け理解しようとしている。(c)	
	3						

合計 35 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年	1	科	全学科
使用教科書		高等学校 化学基礎（数研出版）							
補助教材等		リードLight ノート化学基礎（数研出版）							

1 学習の到達目標

日常生活や社会生活との関連をはかり物質の変化への関心を高め、観察や実験を行い、化学的な探求能力と態度を育成する。基本的概念、原理・諸法則を理解させ化学的な見方・考え方を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業の欠席をしないようにすること。
- 前向きに授業に取り組むこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会生活との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な考え方や、原理、法則を理解している。 ・実験、観察の基本操作や記録などの技能が身につけている 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化から疑問を持ち、観察、実験を行い、その結果を自分の言葉で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活にある物質の変化に主体的に関わり、自分の考えとあわせて探求しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査 ○実験レポート ◎小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査 ◎実験レポート ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験レポート ◎自己評価 ◎出欠席、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期	4	物質の構成	教科書 補助教材	30	純物質と混合物	原子の構成粒子について理解している。(a) 原子の電子配置からイオンになりやすさ、周期表との関連について考えることができる。(b) 身のまわりにある物質を、粒子の結合の視点から興味を持って見ることができる。(c)
	5	物質の構成粒子			物質とその成分 物質の三態と熱運動 原子とその構造 イオン 周期表	
	6	粒子の結合			イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子 金属結合と金属結晶	
二学期	7	物質と化学反応式	教科書 補助教材	40	原子量・分子量・式量 物質量	1molの量を示したり、実際の物質の量をmol数で表すことができる。(a) 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や体積変化でとらえることができる。(b) 身近にある酸や塩基、酸化還元反応を利用したものに興味をもつ。(c)
	8				溶液の濃度 化学反応式と物質量	
	9	酸と塩基の反応			酸・塩基 水素イオン濃度とpH	
	10				中和反応と塩 中和滴定	
	11	酸化還元反応			酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応	
三学期	12					
	1					
	2					
	3					

合計 70 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	1	学年	2	科	全学科
使用教科書		高等学校 科学と人間生活（第一学習社）							
補助教材等									

1 学習の到達目標

<p>科学と人間生活とのかかわり、自然の探究・解明や科学の発展の過程について、観察、実験などを通して理解し、科学に対する興味・関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○授業の欠席をしないようにすること。 ○前向きに授業に取り組むこと。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりを理解している。 ・実験・観察の基本操作や記録などの技能が身についている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象から問題を見だし、実験・観察から得られた結果を自分の言葉で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に進んで関わり、自分の考えを振り返り、探究しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査 ○実験レポート ◎小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査 ◎実験レポート ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験レポート ◎自己評価 ◎出欠席、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期	4					
	5					
	6					
二学期	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
三学期	12	生命の科学	教科書		ヒトの生命現象 微生物とその利用	タンパク質やDNAの構造やはたらき、 発酵および発酵食品について理解して いる (a)
	1					免疫についての学習からアレルギーや 予防接種について説明できる (b) 学習内容を日常生活や健康管理に結び 付け理解しようとしている (c)
	2	地球や宇宙 の科学		35	自然景観と自然災害 太陽と地球	地球の内部構造や天体の運動の周期性 について理解している (a) 温室効果のしくみから地球温暖化問題 について考察できる (b)
	3					プレートの分布と地震や火山の活動に ついて理解しようとしている (c)

合計 35 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2	学年	2	科	全学科
使用教科書		高等学校 新物理基礎（第一学習社）							
補助教材等		ネオパルノート物理基礎（第一学習社）							

1 学習の到達目標

日常生活や社会生活と関連をはかり物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、観察、実験をおこない、物理学的に探求する能力と態度を育てる。基本的概念、原理・諸法則を理解させ科学的な見方・考え方を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業に遅れたり休んだりしないこと。
- きちんとノートをとること。
- 居眠り、教科と異なる読書、ゲームなどしないこと。
- 復習をすること。特に問題演習を行うこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物、現象について、基本的な概念や原理、法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物、現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物、現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査 ○課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査 ◎課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の提出 ◎出席状況、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期	4	物体の運動	教科書 補助教材	30	等速直線運動 等加速度直線運動 運動の法則 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー 熱量の保存	各運動の式を用いて、それぞれの物理量を計算できる。(a) グラフからそれぞれの物理量を読み取れる。(b) 身の回りの物体の運動を理解しようとする。(c)
	5	力と運動の法則				
	6	仕事と力学的エネルギー 熱とエネルギー				
二学期	7	波の性質	教科書 補助教材	40	波の表し方 波の重ね合わせ 音の性質 固有振動 電荷 電流と電気抵抗 磁場 交流の発生 太陽エネルギーの利用 原子核と放射線	波や電気の基本的な要素に成り立つ関係を式で表せる。(a) 弦や気柱、直列や並列などの実際のケースに応用させることができる。(b) 身の回りの現象と結び付けて波や電気の特徴を理解しようとする。(c)
	8	音波				
	9	電荷と電流				
	10	電流と磁場				
三学期	11	エネルギーとその利用				
	12					
	1					
	2					
	3					

合計 70 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	物理	単位数	3	学年	3	科	全学科
使用教科書	高等学校 改訂 物理（第一学習社）								
副教材	リードLight ノート 物理（数研出版）								

1. 科目の目標と評価の観点

目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		◎		◎	年5回
小テスト	○	○		◎	小テスト（知識の確認・計算練習）
提出物	◎		○		ノート・授業プリント・実験報告書
学習状況の観察	◎	—	—	—	自己評価を含む

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・授業に遅れたり休んだりしないこと。 ・きちんとノートをとり、居眠りなどをしないこと。 ・復習をすること。特に問題演習に積極的に取り組むこと。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	I 運動とエネルギー 1. 平面運動と剛体のつりあい ①平面運動 ②放物運動 ③剛体にはたらく力 2. 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数 3. 円運動と単振動 ①円運動 ②慣性力と遠心力 ③単振動 ④万有引力による運動 4. 気体の性質と分子の運動	中間左記範囲	33
	5月			
	6月			
	7月		期末左記範囲	
二学期	8月	①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事 II 波動 1. 波の伝わり方 ①波の性質 ②波の干渉・反射・屈折・回折 2. 音波 ①音の伝わり方 ②ドップラー効果 3. 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉 III 電気と磁気 1. 電場と電位 ①電場 ②電位 ③コンデンサー 2. 電流 ①電流と抵抗 ②直流回路 ③半導体 3. 電流と磁場 ①磁場 ②電流が磁場から受ける力 ③ローレンツ力 4. 電磁誘導と交流 ①電磁誘導 ②交流 ③電磁波	中間左記範囲	50
	9月			
	10月			
	11月		期末左記範囲	
三学期	12月	IV 原子 1. 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③X線 ④粒子の波動性 2. 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核と放射線 ③核反応とエネルギー ④素粒子と宇宙 終章 物理学が築く未来		22
	1月			
	2月			
	3月		期末左記範囲	

合計 105 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	化学	単位数	3	学年	3	科	全学科
使用教科書		改訂 新編 化学(東京書籍)							
副教材		ニューサポート 改訂 新編 化学(東京書籍)							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	①化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。			
	②化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		◎		◎	年5回
小テスト	○	○		◎	小テスト(知識の確認・計算練習)
提出物	◎		○		ノート・授業プリント・課題帳・実験報告書
学習状況の観察	◎	—	—	—	自己評価を含む

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・授業に遅れたり休んだりしないこと。 ・問題演習に積極的に取り組むこと。 ・復習をすること。特に問題演習に積極的に取り組むこと。
--

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	1編 物質の状態 1章 物質の状態 2章 気体の性質	中間左記範囲	33
	5月	3章 溶液の性質 4章 化学結合と固体の構造		
	6月	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 2章 電池と電気分解	期末左記範囲	
二 学 期	7月	3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡	中間左記範囲	50
	8月			
	9月	4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物		
	10月	3章 典型元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 無機物質と人間生活		
	11月	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素	期末左記範囲	
三 学 期	12月	3章 アルコールと関連化合物 4章 芳香族化合物 5章 有機化合物と人間生活	期末左記範囲	22
	1月	6編 高分子化合物 1章 天然高分子化合物 2章 合成高分子化合物 3章 高分子化合物と人間生活		

合計 105 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材	高等学校 改訂 新生物基礎(第一学習社), 改訂 ネオパルノート 生物基礎(第一学習社)								

1. 科目の目標と評価の観点

目標	<ul style="list-style-type: none"> 生物への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させる。 細胞の働きおよびDNAの構造と機能を理解させ、生物の共通性と多様性の視点を身に付けさせる。 生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、健康との関係について認識させる。 生物の多様性と生態系について理解し、その保全の重要性について認識させる。 			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		◎		◎	年3回
提出物	◎		○		授業プリント・課題帳・実験報告書
学習状況の観察	◎	—	—	—	自己評価を含む

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> 授業に遅れたり、休んだりしないこと。 きちんとノートをとること 授業は受け身でなく、能動的に受けること

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	生物の特徴 生物にみられる多様性と共通性	期末左記範囲	20
	5月	細胞とエネルギー		
	6月			
二 学 期	7月	遺伝子とその働き 遺伝子とDNA	期末左記範囲	30
	8月	遺伝子の働き		
	9月	体内環境と恒常性 生物と体内環境		
	10月	体内環境を維持するしくみ 生体防御		
	11月			
三 学 期	12月	植生の多様性と分布 植生と遷移	期末左記範囲	20
	1月	気候とバイオーム		
	2月	生態系とその保全 生態系と物質循環		
	3月	生態系のバランスと保全		

合計 70 時間